

# 東京支部ニューズレター

発行：2015年1月20日 発行者：日本カトリック看護協会（JCNA）東京支部  
事務局：〒161-8550 東京都新宿区中落合 2-5-1 聖母病院内（支部長、西村晶子）  
Tel:03-3951-1111 E-mail:jcnatoukyousibu@yahoo.co.jp

## <JCNA 東京支部顧問司祭ご挨拶>

東京支部顧問司祭 バレンタイン・デ・スーザ S.J

新しい年に入って、正月早々から全世界に色々なことが起こり始めました。私たちは一人の信者として移り変わっている世界の中で永遠を見つめていかなければならないのです。こうなってしまうたら、私たち個人個人の生活は、穏やかにするしかないでしょう。このことが、この一年間の私たちの秘訣ではないでしょうか。この一年、大勢の人々、様々な体験、出会い、いろいろなことが私たちを待っています。この一年を迎える毎日の生き方が準備になれば、受け入れる心が知らないうちに造られていくと思います。お互いに支えあいながら、励ましあいながら、心を開きながら手を差し伸べて歩いていきたいと思います。個人個人のチャレンジでしょう。

\*\*\*\*\*

## <第56回 JCNA 全国大会 in 東京が開催されました>

日時：2014年10月18・19日（土・日）

場所：上智大学目白聖母キャンパス・聖母病院聖堂

大会テーマ：「生きる意味を問う一祈り、喜び、感謝して一」

### ★JCNA 東京支部長ご挨拶

JCNA 東京支部長 西村晶子

新年のご挨拶を申し上げます。

東京支部会員の皆様、JCNA をご支援くださっておられます皆様、あけましておめでとうございます。昨年10月東京支部が担当して行われました第56回 JCNA 全国大会では、大変お世話になりました。谷口弘子大会長のもと、支部役員と大会準備協力者のご協力のおかげで、沢山の恵みいただいた大会となりました。心からお礼申し上げます。

特にお忙しい中、東京大司教区幸田和生補佐司教様、日本カトリック医師会名誉会長 石島武一先生、東京都看護協会副会長 本田みき子様、聖母病院院長 市瀬裕一様には開会式にご臨席を賜り、心から御礼申し上げます。

大会の様子は、カトリック新聞にも掲載されました。

大会誌は、幸田和生補佐司教様の基調講演、『マルコ福音書の中の病人とキリスト』、バレンタイン・デ・スーザ神父様の『分かち合いの導入』、4人の方の事例報告と、沢山の写真と皆様のおことばを載せて作成しました。

講演と報告の後、西山・藤井両教授のユニークなグループ分けが行われました。グループワークでは、参加者一人ひとりが、自分の日々の看護・介護の思いを存分に語り、分かち合いをし、交流出来たと思います。参加された方々の貴重なご意見等は、本部役員広報担当の西久保秀子様のご尽力によって大会誌にほぼ全部載せて完成いたしました。カトリックナースとして繋がっているというあの日を思い出してお読みいただければ嬉しいです。

・・・今年度は、第57回大会で広島支部が担当します。大会旗もお引き渡ししました。被爆70年の年に、広島での大会は、JCNA に取りましても、日本のみならず、全世界の人々に取りましても特別な年になると思います。大会のテーマは『平和への希求—時代を生きる私たちの選択—』です。・・・大会成功に向けて、東京大会の準備を思い出しながら、私達一人ひとりも、一日一回大会の成功をお祈

りし参加したいと思います。本年もどうぞよろしく申し上げます。

### ★事例報告者の感想

#### 第56回 JCNA 全国大会 in 東京に参加して

聖母病院小児科外来 広戸雅子

発表の準備期間中、私は今大会のテーマ「生きる意味を問う一祈り、喜び、感謝して一」を通して、自分は今まで看護師としての生きる意味を考えたことがあったらどうかと考えていました。この9年間を振り返ると無我夢中で突っ走ってきたように思います。日々目の前の患者さんに向き合って、いわゆる業務をこなしていなかったらどうか。「患者さんの気持ちになって」「患者さんの立場に立って」と思いながらも「ミスなく関わった」「間違いなく関わった」「確実に関わった」・・・決して間違いではないと思いますが、それが中心になっていなかったらどうか？

外来は病棟と違い、限られた時間の中でたくさんの患者さんに関わらなくてはなりません。正直、状況によっては気持ちに余裕がなくなることも多くあります。その中にあってどの患者さんにも同じように祈ることができるか？共に喜ぶことができるか？感謝することができるか？・・・つまり、どの患者さんにも目と心をかけて寄り添う看護ができているか？ということが大切なのではないかと考えました。

また、今回参加させていただいたことで、私自身出来ているつもりでいたことが違う方向から考えてみると実は出来ていないかもしれない、別のアプローチの仕方の方が患者さんに合っていたかもしれない、患者さんに寄り添えていなかったのでは？などたくさんの気づきがありました。特に、大会の中で分かち合いからもたくさんのヒントをいただきました。これからも神様からいただいたタラントを増やし、患者さんに少しでも多く還元できるように、そして看護師としての生きる意味に繋がることのできるよう頑張っていきたいと考えました。

今回私のような若輩者がたくさんの諸先輩方の前で事例報告させていただく機会を与えていただき大変感謝しております。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

### <JCMA・JCNA 合同黙想会が開催されました>

日時：2014年12月7日（日）

場所：聖母病院聖堂、集会室

指導：バレンタイン・デ・スーザ師

参加者：JCMA 9名 JCNA 13名

### ★JCMA・JCNA 合同黙想会に参加して

聖母看護学校 河野小夜子

1年ぶりに黙想会に出席しました。今回は22名とお部屋一杯になるくらいでした。年々参加者が増えているのかなと思ううれしくなりました。

バレンタイン神父様の黙想は沈黙から始まり、呼吸法で呼吸を整えることで身も心も準備が出来るのかなと思いました。私は自分の希望通りに行かない時は『どうして思った通りに行かないのか』と地団太踏んで悔しがっていました。神父様は、私たちの思いではなく神様の計画に思いを寄せることの大切さを話して下さいました。神様は私たち人間をこよなく愛されていて、私たちに必要なものを必要な時に与えて下さると。本当にそうだと思います。イエスの誕生は、神様が私たちを招いて下さっています。神様は私個人に関心を持って共にいて下さり、特に苦しい時はなおさらのことです。

1つのエピソードを話されました。インドの女性が仕事を終えて帰る時、修道院の院長様にいつも『クリスマスおめでとうございます』と言って帰宅していました。院長様は彼女にその言葉の意味を確認したところ、彼女はビックリして『院長様は毎日神様に出会わないのですか』と言ったそうです。

・・・全員で聖書を読むことで一体感が生まれました。待降節の準備として神との関わり、待つことの大切さを話されました。

\*\*\*\*\*